

物部川・仁淀川 水防災意識社会 再構築ビジョンの取組状況 ～防災情報提供アプリの開発～

【高知県】

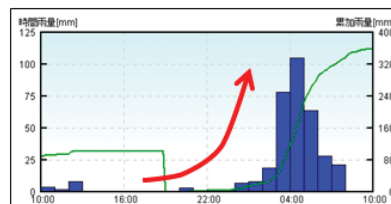
防災情報提供アプリの開発。

【実施機関】 高知県

自らの命は自ら守る

- ・これまで異常気象と呼ばれてきたものが、今や異常とは言えない状況となりつつある
- ・ゲリラ豪雨など急激に悪化する事態が増加
- ・住民が危険性を早期に察知して「自らの命は自らが守る」という意識で避難行動をとれるよう、自治体が的確な情報を提供することが求められている

平成30年7月豪雨での実測雨量



課題

速やかに避難行動をとってもらうために、

- ① 災害の**危険性が増していることをリアルタイムに認識する**
- ② さまざまな**防災情報を迅速に収集する**

ことが必要

対策

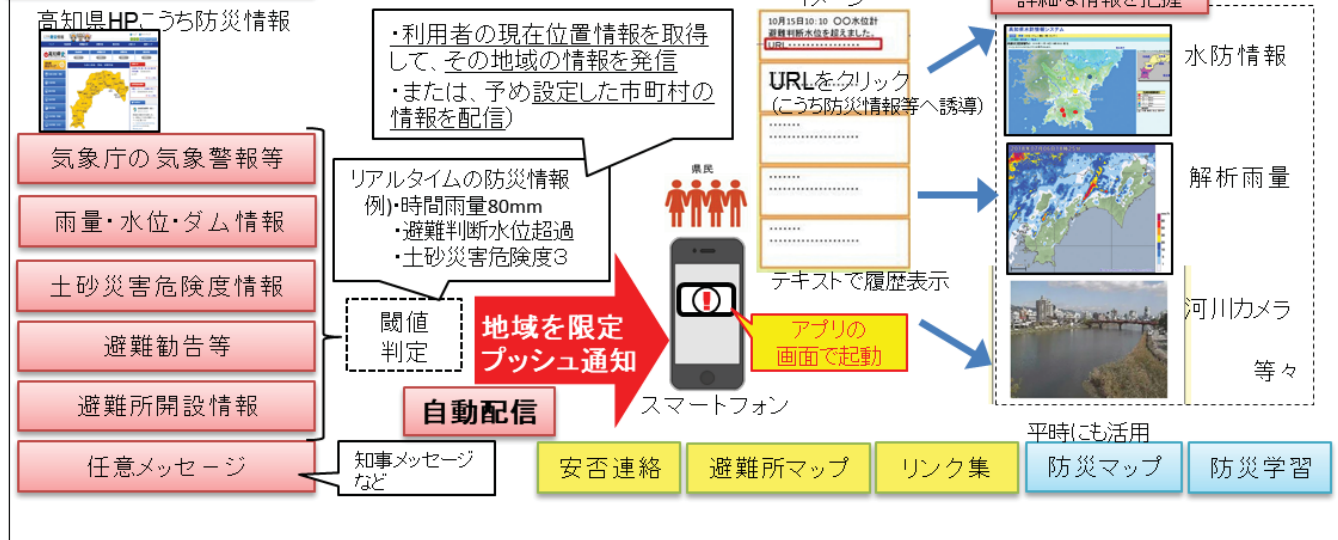
「防災情報提供アプリ」を新たに開発

プロポーザル 審査委員会の開催

アプリの開発事業者を選定するため、プロポーザル審査委員会を開催(R1.9.6)

- 審査委員長
高知大学 原先生
- 審査委員
高知地方気象台 次長
日本防災士会高知 副理事長
高知県土木部 副部長
高知県危機管理部 副部長

アプリ開発イメージ



開発スケジュール

○2019年度 開発 → ○2020年度から

- ・防災士、自主防等にダウンロードを呼びかけ
- ・防災行政無線など従来からの伝達手段に加えて、ハイブリッドに情報を伝達